

**オムロン株式会社 2017年度3Q決算  
投資家様向け説明会 質疑応答(サマリー)**  
(2018年1月30日、東京)

◆ 全社業績・経営・戦略関連

Q: 過去最高の営業利益866億円が視界に入ってきているが、経費をコントロールして最高益達成を狙うことはあるのか？

A: 中期計画の目標達成が第一であり、短期的な目線での恣意的な経費のコントロールは行わない。中長期の視点で経営にあたっていく。

◆ 制御機器事業 (IAB) 関連

Q: 上期と比較して3Qの営業利益率が低下している理由は？

A: 営業強化に伴う人財採用やグローバルでのオートメーションセンターの設置など、将来に向けた投資を拡大していることが影響している。今後も中長期の成長を目指し、投資を加速させていく。

Q: 中国における3Qの売上高の伸びが上期から落ちている理由は？

A: 季節性要因。上期はスマートフォン向けの需要が強かったが、3Qでは一服したことが影響した。

Q: 米州における3Qの売上高の伸びが上期から上がっている理由は？

A: 自動車、半導体向けの需要が強かったことが大きい。また、ソリューション営業の成果が上がってきている感触もある。

◆ ヘルスケア事業 (HCB) 関連

Q: 今後目指す営業利益率の水準は？

A: 10%は確保していきたい。その上で将来の成長に向けた投資を行い、特に新たな領域としてサービス事業を創出していきたい。

Q: オンラインチャネルでの売上高比率は？

A: 国によって大きく異なる。最も普及している中国では、売上高の約4割をオンラインチャネルが占めている。

Q: 生命保険会社などと連携して、パーソナライズ医療を展開することも考えているのか？

A: 生命保険会社を始めとして、BtoBを視野に入れた事業展開も考えている。

Q: 心電図の解析には専門知識が必要だと思うが、一般の患者でも結果を判断できる仕組みはあるのか？

A: オムロンの協業先であるAliveCor社では心電図をオンラインで送ることで、診断するサービスを既に展開している。追加コストをかければドクターの診断も受けられる仕組みになっている。

Q: オンラインではなく、エッジコンピューティング側にアルゴリズムを入れて解析することはできるのか？

A: 技術的には可能。但し、特に日本では薬事法等の関係で出来ない。

◆ 本社直轄事業 (その他事業) 関連

Q: 通期の売上高の見通しを下方修正した理由は？

A: バックライト事業で受注を絞り込んでいることが影響している。今後も高付加価値領域へのリソースシフトといった最適化を進めていく。

\*\*\*\*\*